2025.6.14

長崎市万才町遺跡出土の四禽文鏡

１．長崎市万才町遺跡出土の斜縁四 獣 鏡 改め四禽文鏡について

30 年ほど前に長崎市の発掘調査によって出土した同鏡を九州大学の辻田淳一郎先生が実見、観察されるということで、筆者も同行させていただきました。６月６日（金）、平野町の長崎市歴史民俗資料館で長崎市文化財課の宮下雅史課長補佐立会のもとで実施いたしました。

標題の通り、従来、斜縁四獣鏡と呼ばれていた同鏡は、辻田先生の実見の結果、中国鏡で岡村編年の漢鏡７期（2 世紀後半から３世紀初め）の後半に編年される四禽文鏡とのことでした。禽とは鳥類のことです。製作地は中国華北地方の東部になります。日本での出土数は少なく、出土時期は弥生時代終末と古墳時代に分かれるそうですが、結論は今後の先生のご研究に委ねられることになりました。いずれにしても西北九州の外洋に面した当地になぜ中国鏡がもたらされたのか、大変興味深いところです。

なお、先生の四禽文鏡の御研究は福岡県大野城市の古野古墳群の調査報告書に掲載されております。残念ながら全国遺跡総覧に up されておりませんので、必要な方は筆者までメールでお知らせください。PDF にてお送りいたします。

なお、同鏡の面径を従来 6.4 ㌢と申し上げてきましたが、7.0 ㌢の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

【参考文献】

長崎市史編さん員会 2013『新長崎市史』第１巻　長崎市
長崎市埋文調査協議会 1996『万才町遺跡』ー朝日生命ビル建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書ー　長崎市埋蔵文化財調査協議会
辻田淳一郎 2017「古野遺跡 4 次 8 号墳における四禽文鏡の副葬とその意義」乙金地区遺跡群 21（下巻）大野城市文化財調査報告書第 157 集　大野城市教育委員会

長崎市万才町遺跡出土
四禽文鏡（面径：70mm）

長崎市文化財課提供